



海外生活レポート①



## 【ポーランド】

レポーター 坂田 慶子 さん  
2008年5月よりワルシャワ在住



▲ワルシャワ蜂起

## ワルシャワの四季

ポーランドの首都ワルシャワに赴任し、丁度1年経ちました。みなさまはポーランドと聞くとどのような国をイメージされるでしょうか？一般に、東欧諸国は西欧諸国に比べて、地味で華やかさに欠け、なんだか暗い国だと思われがちです。東欧の中でも、ポーランドはアウシュヴィッツ強制収容所やワルシャワ蜂起、冷戦時代に存在したワルシャワ条約機構など、なんだか殺伐として陰気なイメージです。そのためか、東欧ツアーといえば、チェコのプラハやハンガリーのブダペストのような、かつての大帝国の面影を残す美しい旧市街を巡ることはあっても、ポーランドはアウシュヴィッツを訪ねる程度で、ワルシャワを観光するツアーなど、まずないでしょう。

でも、少し考えてみると、そういえばショパンはポーランド人だし、前のローマ教皇ヨハネ・パウロ二世もポーランド人。「クオ・ヴァディス」を書いたシェンケヴィッチ、「大理石の男」のワイダ監督や連帯運動のワレサ議長など、日本でも良く知られているポーランド人は結構多いのです。この他に、コペルニクス、キュリー夫人、コルベ神父などもポーランド人です。

そんなわけで、日本ではあまり馴染みのないワルシャワに住んでみて感じた四季の風物をお伝えしたいと思います。これを読んで、ワルシャワに関心を持って頂ければとても嬉しいです。そしてまたワルシャワを訪ねて頂ければ、更に嬉しいです。

### 春 スズラン売りのおばあさん

私が最初にワルシャワの春を感じたのは、街角のスズラン売りのおばあさんです。5月中旬になると、朝の出勤時、街の角々にバケツに一杯スズランの花束を持ったおばあさんたちが現れます。一束4〜5ズロチ（100〜200円程度）のかわいらしいスズランの花束（片手で握りくらしい）が手に入ります。日本でスズランの花束なんて、めったに見かけませんよね！



### 夏 ワジェンキ公園のショパン・コンサート



夏の時期（7〜9月）に、市内で一番大きなワジェンキ公園のショパンの銅像の側で、毎週日曜日の午後、ピアノの野外コンサートが催されます。勿論、入場無料。ワルシャワっ子や観光客が、バラの咲き乱れる庭園のベンチや芝生に陣取って、世界各国の若手ピアニストによるショパンの演奏を楽しみます。

夏の時期（7〜9月）に、市内で一番大きなワジェンキ公園のショパンの銅像の側で、毎週日曜日の午後、ピアノの野外コンサートが催されます。勿論、入場無料。ワルシャワっ子や観光客が、バラの咲き乱れる庭園のベンチや芝生に陣取って、世界各国の若手ピアニストによるショパンの演奏を楽しみます。

### 秋 ワルシャワ、黄金の秋

ワルシャワの秋は、「黄金の秋」と称されるほど木々が美しく紅葉し、黄金色の落ち葉の絨毯が敷き詰められます。秋のワジェンキ公園では、そこかしこでリスたちが駆け回り、黄金の絨毯の下に宝物を埋める光景がみられます。



### 冬 ワルシャワ旧市街のクリスマス市

ポーランドは前のローマ教皇を引き合いに出すまでもなく、カトリック大国として知られていますが、クリスマスは結構地味です。ドイツやオーストリアでは、どんな街にもクリスマス市が立ち、クリスマス飾りやお菓子などの売店で賑わいますが、ワルシャワにクリスマス市ができたのは、なんと昨年（2008年）から。しかも、売店の数も20件程度で、なんだか寂しいクリスマス市でした。それでも旧市街の真ん中には大きなツリーが立って、これは年明け後もしばらく飾られていました。



みなさま、これでワルシャワがどんな街なのかイメージして頂けたでしょうか？ワルシャワは春爛漫。色々な花々が一緒に咲き誇っています。街路には、桜、雪柳、子手毬、山吹、連翹、木蓮、藤、クロッカス、チューリップ。日本では春から初夏にかけて徐々に花々が移り変わってゆくのに比べ、ここでは全てが一週に、怒涛のような春を迎えています。首都の街中をタンポポの綿帽子がふわふわと漂うのどかなワルシャワを是非一度訪ねてみてください。（2009年5月記）